

阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンターからお届けする

くじゅうだより

TAKE FREE!



特集 温泉も楽しめる登山口

2021-2022 冬号

表紙：噴気をあげる硫黄山

くじゅうファンクラブ活動情報

皆さまのご支援で、こんな活動をしています。

教育・普及啓発

自然環境保全・調査

登山道等維持管理

「くじゅうファンクラブ」は、「くじゅう地区管理運営協議会」の通称名称です。

玖珠美山高校の登山道整備

11月9日、玖珠美山高校地域産業科3年生21名と、牧ノ戸峠～扇ヶ鼻分岐までの約1.2km区間の登山道整備を行いました。この活動は平成24年から始まり、今年で9回目を迎えます。今回は登山道の水切り作業や土留めの修繕、ロープ柵の取替えとロープの張替え等を行いました。当日は途中から雨が降り始めあいにくの天気となりましたが、高校生たちも雨の中カッパを着用して、一生懸命作業を行ってくれました。午前中だけの短い時間でしたが、素晴らしい整備を行うことができました。参加してくださった皆様、ありがとうございました！



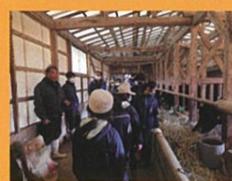
協力機関(スタッフ総勢27名)

環境省くじゅう管理官事務所、大分西部森林管理署、大分県自然保護推進室、玖珠警察署、竹田市、九重の自然を守る会、くじゅうネイチャーガイドクラブ、長者原ビジターセンター



チームタデ原 「草こづみ」作りと草運び

九重町の小中学生からなる「チームタデ原」。10月3日に、くじゅう地域で昔よく作られていた「草こづみ」を作りました。「草こづみ」は、カヤを切っていくつかの束にした後に小さな小屋のように積んで、家畜の冬の餌や敷き藁としていたものです。2年目となる今年は青い時期に草を刈ることで、昨年より更に立派な草こづみができあがりました。12月4日には草こづみを近隣の畜産農家さんに運び入れ、自分たちが作った自然の干し草を牛たちが美味しく食べる姿を見学しました。さらに農家さんにも運び、畑の保温と虫よけに利用してもらうとともに、畜産農家さんの牛の堆肥が畑の栄養となりお見事な循環ができていた話をお聞きし、活動の意義を実感しました。



タデ原湿原の防火帯づくりがおこなわれました

9月15日・10月19日にタデ原の外周、11月16日・20日に木道沿いの防火帯づくりが、地域の方々により行われました。この作業は、枯れた草木に火をつける春の野焼きの準備で、周囲の森や木道が延焼しないよう幅5～7m程度草を刈ってあらかじめ焼いておき、防火帯とするものです。タデ原の木道沿いでは、植物の観察や保全のために種子が落ちたあとの11月にこの作業を行うので、「防火帯焼き」のかわりに「草寄せ」の作業を行います。

毎年繰り返される重労働ですが、地域の皆さんの協力によって成り立っています。ありがとうございます！くじゅうファンクラブでは、防火帯づくりのお手伝いや道具の購入・貸出を通して地域の野焼き活動を支援しています。



オオハンゴンソウ駆除活動

8月から11月にかけて、「九重の自然を守る会」がタデ原湿原などでオオハンゴンソウの駆除を行いました。オオハンゴンソウとは北米原産のキク科の植物で、繁殖力が強いことから国の特定外来生物に指定されています。深く張った根を掘り起こし、土を落としていく根気のいる作業です。10年以上に及ぶ地道な活動により、くじゅうではオオハンゴンソウの姿が減少してきています。くじゅうファンクラブでは皆様から頂いたご支援を外来種駆除活動等の道具の購入にも充てさせて頂いています。くじゅうの自然を守るためにご協力をお願いいたします。



「牧ノ戸レクチャー」をおこないました

10月30日、紅葉シーズンが続く牧ノ戸峠登山口で、安全登山を呼びかける「牧ノ戸レクチャー」を開催しました。ビジターセンター職員のほか、大分県警、環境省、大分県、くじゅうの自然を守る会、くじゅうネイチャーガイドクラブのメンバーで、登山届の記入や装備の確認などを呼びかけました。



冷たい風の吹く寒い日でしたが、朝7時まえから9時ごろまで、300人以上の登山者に登山届を記入していただきました。くじゅう連山では、道迷いなどを原因とした遭難が発生しています。登山の際は事前の計画をきちんと立て、地図をもって歩くようにしましょう。

阿蘇くじゅう国立公園・タデ原レクチャー

＜参加費無料／要予約（団体向け）＞

学校などの団体向けプログラム。国立公園の概要やタデ原湿原についてなどのレクチャーを15分～30分程度で行います。お気軽にご相談ください。



タデ原の自然観察会

＜参加費無料／事前申込不要（個人の場合）＞

九重の自然を守る会のボランティアガイドによる人気のイベント。毎週日曜(12～2月は隔週)・祝日10:00～12:00に開催しています。参加希望の方は10時までに、直接ビジターセンターへお越しください。団体でのお申し込みの場合は事前にご相談ください。



(注)新型コロナウイルス感染症拡大状況によっては、行事を中止することがあります。開催状況につきましては、随時お問い合わせください。また当日の検温への協力とマスクの着用をお願いいたします。

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育普及・啓発活動、自然環境保全・調査活動、登山道等維持管理活動を実施しています。活動に賛同してくださる賛助会員(年会費/個人一口3,000円、団体一口10,000円)や寄付を募集しています。賛助会員の方には、会員証の発行のほか、缶バッジのプレゼント・お便りの送付などの特典を用意しています。詳しくはくじゅうファンクラブホームページ(左下にQRコード記載)をご覧ください。



くじゅうだより 2021-2022冬号

発行元：くじゅうファンクラブ
(くじゅう地区管理運営協議会)
879-4911 大分県玖珠郡九重町大字野田255-33
長者原ビジターセンター
TEL & FAX 0973-79-2154
くじゅうファンクラブホームページ：
<http://kujufanclub.com/>

★くじゅうの最新の自然情報などはフェイスブックで！
<https://ja-jp.facebook.com/choujabaruvisitor/>

★活動報告やくじゅうの基本情報などはくじゅうファンクラブホームページで！
<http://kujufanclub.com/>



リレー式 職員からのひとこと

くじゅうには1,700mを超える峰が9つあるらしい。それをぜんぶ、1日で、一筆書きで行けないか妄想してみる。大曲から入って、三俣山(IV峰、本峰、西峰)をまわって坊ガツルへ。大戸越から北大船へ。段原を経て大船。立中をこえて白口へ。稲星、中岳、天狗のあと、神明水側から久住へ。さいごに星を越えて牧ノ戸へ。13時間くらいで行けるかな？ 峠からの登りはまだ難しいかな？ 日の長い時期がいいかな？ などと妄想しながら雪景色と地図を見るのが冬の楽しみ。(大島)

長者原ビジターセンターへは



長者原ビジターセンターまで車で、由布院から40分/九重ICから30分



温泉も楽しめる登山口



くじゅう連山は1700m級の山々が連なり、四季折々の景色を求め多くの方が訪れる魅力的な場所です。登山口も多いため、自分の体力や目的にあったコースを選べます。一方でくじゅう連山はまだまだに噴煙を上げる硫黄山に代表される活火山であり、その恵みでもある温泉が周辺に多数湧出している場所でもあります。

くじゅう周辺の温泉の歴史は古く、筋湯温泉では千年以上前から利用されていたという記録があります。源泉の種類も豊富で単純温泉、硫黄泉、寒の地獄の冷泉から、七里田温泉のような炭酸泉まで多種多様な温泉があります。登山の後に気持ちの良い温泉に入りたい!と思う方も多いのではないのでしょうか?そこで、今回はくじゅうの山々を登山した後、「温泉も楽しめる登山口」にスポットを当てて紹介します。

① 長者原 (九重) 登山口



九重登山口



九重星生ホテル

県道11号線(やまなみハイウェイ)沿いにあり、牧ノ戸峠登山口と並び、くじゅうの玄関口。ここから雨ヶ池を通り坊ガツルや大船山、平治岳を目指すルートやスガモリ越えから三俣山を巡るルートなど様々な山にアプローチできます。

長者原温泉

「長者原」の地名は大分観光の礎を築いた油屋熊八が朝日長者伝説にちなんで命名しました。江戸時代以降、硫黄山の硫黄採取を生業とする人々で賑わいましたが、時代の流れと共に閉山となり、現在では観光客や登山者に多く利用されています。周辺の「星生温泉」「牧ノ戸温泉」「冷泉が湧く「寒の地獄温泉」と合わせて長者原温泉郷とも称されます。

② 涌蓋山 疥癬湯登山口

筋湯温泉から下り、玖珠川の橋を渡った先に登山口があります。くじゅう連山の北西に位置し、「玖珠富士」とも呼ばれる涌蓋山への登山口です。

筋湯温泉

共同浴場の約2mの高さから落ちる「打たせ湯」が迫力のある温泉。この打たせ湯と筋肉の痛みに良く効くことから「筋湯」と呼ばれるようになったと言われています。その歴史は古く、開湯は958年と千年以上の歴史を誇り、涌蓋山の山麓に20件以上の宿が点在します。



筋湯温泉



涌蓋山登山口

法華院温泉 番外編

坊ガツルの南西にある法華院温泉は鎌倉時代から天台宗の一大霊場・法華院白水寺として栄え、くじゅうの山岳信仰の象徴となる場所でした。1882年より山宿となり、九州で最も高い場所にある温泉としても知られ、硫酸温泉が登山者の疲れを癒してくれます。



③ 岳麓寺登山口



七里田温泉

県道669号線から広域農道(奥豊後グリーンロード)に入り、集落の中の道を看板に従って進むと駐車場があります。(駐車場は令和2年7月豪雨の影響でやや荒れています。)その先が登山口となり、竹田市側から入山公廟を通り大船山を目指すルートの入口となります。



七里田温泉館

岳麓寺登山口からは車で5分ほど、大船山の麓にある天然炭酸温泉。下ん湯は特に高濃度の炭酸が含まれています。岡藩3代当主であり、入山公廟に葬られた中川久清がお茶屋を建て、当時使用していた記録がある温泉です。

④ 一番水 (レゾネイトクラブくじゅう) 登山口



レゾネイトクラブくじゅう

県道669号線沿い「レゾネイトクラブくじゅう」の第3駐車場が登山者用の駐車場。くたみ分れを通り坊ガツルや立中山を目指すルートになります。くたみ分れ周辺は春に山桜が綺麗に咲き誇ります。



久住の自然を満喫出来るリゾートホテルとして「レゾネイトクラブくじゅう」がオープンした27年前より湧出しています。天然の保湿成分メタケイ素を含む炭酸水素温泉です。

⑤ 赤川登山口



国道442号線より赤川荘方面へ。登山口には駐車場とトイレが設置されています。急斜面に整備された階段を登る、久住山までの最短ルートになります。

赤川温泉



赤川荘

登山口からすぐの「赤川荘」にある温泉。文知2年(1185年)源頼朝時代に巻狩り演習中の兵士により発見されたと伝えられており、久住山赤川谷奥で自然湧出しています。硫化水素と炭酸ガスを同時に含んでいる珍しい硫酸冷鉱泉です。国道沿いには「久住高原ホテル」の温泉もあります。

くじゅうの温泉をもっと知りたい方のために

冊子「くじゅう山のルール&マナー」に立ち寄り温泉MAPが記載されています。※長者原ビジターセンターで配布しています。



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、受入れを変更している施設がございます。詳しくは各施設にお問い合わせください。